

PICK UP

## 鮫川村の暮らしを振り返って

緑のふるさと協力隊活動報告(写真・文/原倫子)



緑のふるさと協力隊として昨年4月に鮫川村にやってきた原倫子さん。3月15日、無事1年間の活動を終え旅立ちました。

広報さめがわでは、毎月「ふくふくの縁」と題して、彼女の鮫川村での体験記をご紹介します。今月号では、1年間の活動をまとめた報告書が完成しましたのでご紹介します。

彼女の目には鮫川村がどのように映ったのでしょうか。

### 自給力があるということ

私が村に来た時は、東日本大震災のちょうど1か月後でした。とても地震があったとは思えないほどの穏やかな様子でした。ガソリンの調達に苦労したようですが、直売所には日用品があり、各家庭でも食料には心配なかったという話を聞きました。生きていくうえで、最も必要な食物を自分で作り、蓄えておくことができる農山村の自給力が見直された年ではなかったかと思えます。春は山菜、秋はキノコ類などの季節

に沿って自然の恵みをいただく知識、長い経験で得たおいしい野菜や米を作る技術やコツ、それを漬物や塩漬け、乾燥して保存する智慧。生活に必要なかごや道具、紙などは自然界から素材を見つけて、作り上げていく技術。ゼロから作っていく「力自給力」は、何があっても大丈夫だというゆるぎなさがありました。また、鍬や鎌をもつ姿や束つら作り、シノミ使いなど、あざやかな手さばきや身のこなし方が、とても美しくて美しく、一つの技だ

と思いました。失われたくない技だと思えました。自分の蕎麦畑をもつことになりました。四方の土手や畑の草刈りから始まりました。汗をかいては休み、汗をかいてはボーと、青い空や風で揺れる木々を見ながら一日かけてしました。覚えての草刈機が楽しかったのと、自分の畑がもてる喜びでいっぱいでしたが、日が暮れるにつれて、独りで農業をした「長く感じた一日」のものの寂しさをちょっぴり味わいました。

### 結いの心を知る

自分の蕎麦畑をもつことになりました。四方の土手や畑の草刈りから始まりました。汗をかいては休み、汗をかいてはボーと、青い空や風で揺れる木々を見ながら一日かけてしました。覚えての草刈機が楽しかったのと、自分の畑がもてる喜びでいっぱいでしたが、日が暮れるにつれて、独りで農業をした「長く感じた一日」のものの寂しさをちょっぴり味わいました。

だ」とジーンと胸に響きました。以前から畑の前で会うと、「収穫の時は手伝うからね」と声をかけてくださっていた近所の方。私のような仕事でなく、体験学習程度の農作業に、本当に手伝いに来てくださったのです。「ばあちゃんも来るからね」また1人増えました。私と近所の方4人で、黙々とやっているのと、「どうだあい」と同じ地区の男性が通りかかりに寄ってくださいました。見るに見かねたのか、気がつけばその男性も、干し掛け場を木で組んで、せっせと蕎麦を運んでくれていました。また1人増えて、計5人で何とか終わることが出来ました。辺りは、もう暗くなり始めていました。



どの方々も、「結いだから」と当たり前のようにおっしゃいました。「結い」とは、田植えや収穫の人手が

### 達者な現役

いる時に、お互いに協力する習慣のことです。とても助かりました。結いの心を身をもって教わりました。後ろを振り向けば、私のために腰を曲げて、せっせと働く4人の姿が今でも忘れられない一日となりました。

村内のさまざまな農作業を体験させていただいて、田や畑でハッラツと働く80歳代を見て驚きました。私が今まで暮らしていた環境では、70歳代はまだまだ動き廻れる歳だと思っていましたが、80歳代になってもしっかり農業をする「達者なお年寄り」を見たのは、初めてでした。そして、話をしてみても村づくりの意識が高く、社会感覚をもっている。頭も体も「達者な現役」なのです。多くの方が、人





で行われています。昼食や体操、クラフトなどの楽しくて介護予防になるプログラムが組まれています。どれも参加してみても、健康な方のデイサービスという感じを受けました。だからいざ介護が必要になり、介護保険を利用したデイサービスへ通うことになっても、抵抗が少なくいけるのではないかと思います。その他に、介護予防調査により選出された対象者に対して行う元気づくり教室やつらつ教室もあるそうです。村の高齢化率は30・2%で、高齢者の一人暮らし世帯は73世帯(平成24年

3月現在)ありますが、傾聴ボランティアが訪問したり、富田地区では、元気支援隊が元気づけながら安全確認を行っています。また、赤十字奉仕団の一人暮らし慰問や寝たきり慰問で関わりを持っていました。村内には福祉施設が2つあります。社会福祉協議会が運営する高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」と社会福祉法人「みやぎ会」が運営する介護老人福祉施設「特別養護老人ホームさめがわ」「グループホームさめがわ」です。ひだまり荘は、在宅介護の拠点になっています。居宅介護支援事業、訪問介護、デイサービスとショートステイがあります。興味深かったのは、居住棟があったこと。ある程度自立している高齢者の一人暮らしの方が入居しています。部屋にはキッチンがあって自炊できるようになっていました。雪が降り、寒

さの厳しい冬は道が閉ざされ、水道が凍結したりと生活に不自由が生じます。そういった時に、安心して生活できる場として建てられました。中山間の地域事情にあった形態だと思いました。また、福島県では初めての高齢者優良賃貸住宅も隣接しています。これは家賃や区費を払っていて、住宅扱いになっています。特別養護老人ホームさめがわとグループホームさめがわは、旧西山小学校の廃校を利用して平成21年4月1日に開設しました。地域密着型の施設です。

げたい気持ちです。高齢化が進む社会で、生きていく若い世代にも、上手に歳を重ねていったたくましい先輩たちの姿を見に来てほしいと思います。

まめで達者な後は…。

多くの行事に参加させていただいて、地域のボランティアが積極的に福祉活動が充実していると思いました。まず、高齢者の介護予防とコミュニティづくりとして①地域サロン②地区高齢者支援事業③筋力づくり教室がありました。

①地域サロンは、高齢者が歩いて集まれる顔なじみの範囲で、集いの場を持ちましようというものです。これは、地域のボランティアの方々が社会福祉協議会から予算をもらって運営しています。現在、二反田(ここがサロンの始まり)、折戸、落合、新宿、ひだまり荘の5地域で行っています。年々、歩いて集まれる範囲内では、参加するお年寄りの数が揃わないことや、車で送迎が必要になってきたこともあり、実施する地域が減ってきています。私は、毎月行われていた折戸サロンに参加させていただきました。ちょっとそこまでお茶を呑みに行く、という感覚で集まれるのが良いと思いました。



②地区高齢者支援事業は、年3〜5回(敬老会を含む)各大字地区で行うものです。各地区の役員や民生委員、食生活推進員、保健推進員などの協力で開催されています。担当は住民福祉課です。ちなみに、西山地区「いきいき大学」、赤坂西野地区「つくし会」、赤坂中野地区「元気会」、東石地区「ドライブラワーの会」、富田地区「ふれあい教室」、渡瀬地区「福寿草の会」、青生野地区「すいせん会」とそれぞれ名前が違います。「そんな会には入ってないから・・・。」という声もあるそうですが、該当の大字地区に住んでいれば誰でも参加できますので、ぜひご出席ください。

③筋力づくり教室は、A〜Eコースに地区を分けて、月1・2回行われます。村の保健師さんが計画を立て、保健センター



顔なじみだけの、気負いのない安心感がある集まりでした。

②地区高齢者支援事業は、年3〜5回(敬老会を含む)各大字地区で行うものです。各地区の役員や民生委員、食生活推進員、保健推進員などの協力で開催されています。担当は住民福祉課です。ちなみに、西山地区「いきいき大学」、赤坂西野地区「つくし会」、赤坂中野地区「元気会」、東石地区「ドライブラワーの会」、富田地区「ふれあい教室」、渡瀬地区「福寿草の会」、青生野地区「すいせん会」とそれぞれ名前が違います。「そんな会には入ってないから・・・。」という声もあるそうですが、該当の大字地区に住んでいれば誰でも参加できますので、ぜひご出席ください。

③筋力づくり教室は、A〜Eコースに地区を分けて、月1・2回行われます。村の保健師さんが計画を立て、保健センター



●1年間たくさんの方にお世話になりました(写真でご紹介【一部】)



地域密着型というのは、29床以下で鮫川村の人が優先的に入れるようになっていきます。もし、ベッドが空き、他町村の方が入所する時は、住所を移すことなく、介護保険を元の町村で負担することを条件としています。全室個室でユニットケアがされています。ユニットケアとは、10人以下で生活の場を区切り、家庭的な雰囲気の中で介護生活が出来る形態です。各ユニットにキッチンや食卓があり、顔なじみのスタッフから介護を受けることができます。鮫川のお年寄りは、今まで達者でなくなっても、最後まで愛着ある地で過ごせるような手厚い仕組みになっていることに感動しました。お年寄りが、どんな状態になってももれなく誰かが関われることになっている。それは、積極的に活動して支えているボランティアの方々、社会福祉協議会と施設が上手く連携をとっているからだと思えます。老いを安心して迎えることができるというところは、高齢者だけでなく、どの世代にとっても「住み続けて良いんだ」という安心感にもなると思います。



人のいる風景

鮫川村の風景は素晴らしく美しいです。四季の移ろいがある、春は桜や菜の花が咲き、夏は清々しい緑に染まり、秋は黄金色に変わって、紅葉がきれいで、冬は雪の白さに感動しました。毎日が「きれいだあ」と思っています。農作業中に吹く気持ちの良い風、鳥の鳴き声、青い空など何もかも美しいと身体中で喜んでいたりと思います。美しい景色だけでは、きっと通り過ぎってしまうでしょう。そこに溶け込んで生活する人や、何気なく歩く姿、田畑

で働く姿があると一層深まります。そして、お話しすると温かみのある訛りが返ってくる。そうすると、記憶に残る美しい里山になります。私が目を閉じて思い出すのは、里山の美しい風景の中にある、村の人々の笑顔と温もりある声です。協力隊として村の魅力を発見する役目もあったのですが、村の宝は村の人々だと思えました。一年間、さまざまなことを体験させていただき、教えていただき、本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

